

第4回瀬戸市 ICT 戦略推進プラン検討委員会 議事録

開催日時	令和2年11月17日(火)午後2時から4時まで				
開催場所	瀬戸市役所北庁舎4階庁議室				
出席委員	8名	欠席委員	0名	傍聴者	2名
会議概要	<p>1 開会挨拶 (事務局・情報政策課長)</p> <p>定刻となりましたのでただいまから第4回の瀬戸市 ICT プラン戦略推進プラン検討委員会を開催いたします。司会進行はわたくし梶田が務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。本日は大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。また、新型コロナウイルスの影響が拡大しつつある中でのリアル開催となつてしまい誠にご不便をおかけしますが、今回は重要な回ですので感染対策をしたうえでぜひ顔を合わせてと思つたのでよろしくお願いいたします。また本日の会議は2名の方が傍聴されていますのでご承知おきください。この部屋が新型コロナウイルス対策のため20名までとなっておりますので、その後我々参加者を含め20名を超えることになった場合、大会議室での傍聴となり、ここは最大20名までということをご理解頂ければと思つます。では会議を始めたいと思つます。はじめに安田委員長からご挨拶頂きたいと思つますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>(安田委員長)</p> <p>皆様どうもこんにちは。大変お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。これまで委員の皆様方には3回にわたつてこの推進計画の取り纏めに対しまして貴重なご意見を頂きまして大変ありがとうございます。お手元の資料にございますように皆様のご意見、事務局のご努力によってここまできました。大変よく纏められているというのが率直な感想として思つておりますが、12月からパブリックコメントを開始するということなので、今回がパブリックコメントに向けての最終的な委員会になります。従いまして今回の委員会でもう一度皆様の目でしっかりと見ていただいて貴重なご意見を賜りますようにどうぞよろしくお願いいたします。</p>				

2 瀬戸市 ICT 戦略推進プラン・官民データ活用推進計画最終原案について

(事務局・情報政策課長)

安田委員長ありがとうございます。それではここから議事進行になりますので安田委員長にお願いしたいと思います。

(安田委員長)

議事次第に従いまして議事を進めていきます。それでは議事次第2の事務局説明ということで事務局から説明をお願いします。

(事務局・岡田専門員)

情報政策課の岡田です。(以降最終原案の中身説明)

(安田委員長)

詳細なご説明を頂きましてありがとうございます。それでは委員の皆様方から今の説明に対するご意見、ご感想等を頂ければと思います。それでは後藤副委員長からお願いします。

(後藤副委員長)

ご説明ありがとうございます。前回から修正され資料等もかなり見やすくなっていると思います。内容も充実した感があり、読みやすいものになってきている印象があります。かなりご尽力され相当時間をかけられたと思いますが、少し細かいところでいくつか気になったことを挙げさせていただければと思います。まず5ページのところで上位計画の整理とあり、ここにある種、全体像をみせる一番目のところになるとありますが、私が気になったのは図の表記の仕方をもう少し工夫できるのではないかと思います。政策のところ将来像、都市像と繰り返しのように入ってきているところもあるのでこれを一つにしてしまつてうまくみせるということも可能かと思いました。あとこれは見栄えの部分のところですが、前回、安田委員長からもプラスに捉えるものは寒色系の色よりも暖色系にしていた方がいいのではないかというお話があったと思いますが、全体的にこの資料を通して見ますと少し寒色系の色が多いのでこの推進計画はプラスに働いていかなければいけないものだと思いますので、色使いについても検討の余地はあると思いました。あと第4章の基本方針と推進体制ですが第5章と分けたのは何か意図があつてのことでしょうか。

(事務局・岡田専門員)

第4章に関してはこの検討委員会の場でご意見頂いたものをしっかりと纏めたいという気持ちで5つのキーワードを整理したものです。それに続いて第5章で4つの目標を挙げたという流れであり、この場で検討したものをしっかりと受け止めたいという思いで章を分けました。

(後藤副委員長)

わかりました。そういった意図があるのであればいいと思います。私が思ったのは第4章のボリューム感が2ページちょっとというところもあるので、非常に重要なところではあると思いますけども、もう少し内容の部分で膨らますことができるかと思いました。それと第5章の一番はじめの図ですが、よく見ると線が繋がってないところがあったりしますが、よく見ると分かりますが、ややそれが見にくいかなと思うところがあるのと、例えば⑥⑦の情報公開の推進・まちの魅力発信が生活の利便性向上に繋がっていないのですが、冷静に考えると生活の利便性向上には情報公開の推進というのがあってもいいのかなと思ったりして、この辺のところは繋がってないものと繋がっているところが、やや判断がつき難しくなっている印象を受けました。48ページですが、まちの活性化(a)のICT人材の育成が書いてあるかと思いますが、私はICT人材という言葉が少しだけひっかかりまして、ICT人材とはどんな人材だろうということが、言わんとすることはすごくよく分かるのですが、例えばハイレベルなICT能力を身に着けた人材だと思うのですが、さきほど調べてみたらいろいろな言葉があります。例えば国とか文科省とか高度ICT人材とか、そういった言葉が使われていたりとかもするので、ICTという言葉と人材という言葉を切り離して考えると、ICT人材というのはそういう意味では皆ICT人材ということがでてくる可能性もありますし、これから生まれてくる子どもも含めてデジタルネイティブで敢えてICT人材と言わなくても既にICTという環境の中で育っていく人材になっていくはずなので、ここまでのところの言葉遣いを少し古いものと捉えられないような新しいイメージに捉えられるような言葉にしてもいいのかなと感じたところがあります。49ページ(b)の高齢者・障害者への支援というところも、頭に例えばICTを活用したとかICT活用によるという言葉があってもより表現として分かりやすいと思いました。大変細かいことばかりで恐縮ですが私の意見は以上です。

(安田委員長)

大変ありがとうございました。事務局から今の後藤先生のお話についてありますでしょうか。

(事務局・情報政策課長)

寒色の青というところが瀬戸市のホームページもそうですが、瀬戸市の特色で青磁、磁気の染付の青のカラーでやっているところもありまして、最初の表紙の「いいもんせともん」のマークもこの紺色です。現在、青色を使っているのはそういう意味合いもあり、ホームページもそうなっているので、どうするかこちらでも一度練ってみたいと思います。確かに暖かい感じはしないので、そこは考えてみたいと思います。ありがとうございます。

(後藤副委員長)

市でそういう意図があるのであれば大丈夫だと思います。例えば部分的にとりか重要なところだけでも変えてもいいのではないかと思います。ありがとうございました。

(安田委員長)

ありがとうございました。それでは続きまして濱村委員よろしくお願ひします。

(濱村委員)

ご説明ありがとうございました。NTT西日本の濱村です。5章、6章で一気にリアルな事業の中身がでてきたことで、より具体性が増して一番テンションが上がったといいますか、各原課の皆様がこれだけICTに対してやっていこうという意思の表れだと思いますので、それが最後に加えられたうえで前回からのバージョンアップということでロジカルジャンプ、論理の飛躍の部分がストーリーとして繋がってきています。細かいところについてはこの部分とこの部分が足りていないのではないか、例えば46ページの図の細かいところはあるかなと思います。構造という意味でいうと非常により分かりやすくなったなという印象です。一点、私が気になったのはこれを更に引き締めるうえでということと言うと44ページの推進体制のところだと思います。このICTの活動というのは、状況が今後どう変わるのかというのは本

当に見通すことが出来ない中で、日々刻々と変わる状況の中で修正しながらやっていかなければこれをやりきることはできないのではと思っています。もしかすると5年後振り返った時には全然違うことが実行として出来ましたというところが、より成果というところに繋がるかと思っております、そういう意味でもPDCAサイクルをどう回すかというところの今後の推進のチェック機能をどうするかとか、今後、活用推進協議会が立ち上がるということですが、これはこの後の議論になるかも知れませんが、ここに対してどのような役割を持たせて、どう進捗管理修正していくかというところが書き加えられるとこれは本当に実現するぞということが分かると思いますので、この一点だけ追加できればより深まるかなと思った次第です。以上です。

(安田委員長)

ありがとうございます。非常に重要なポイントを指摘頂いたと思いますが事務局から今のご意見に対して回答いただければと思います。

(事務局・情報政策課長)

ありがとうございます。確かに出来た後、いかに進捗管理するかというところは我々も力を入れなければいけないところなので参考にさせていただきたいと思います。

(安田委員長)

ありがとうございます。なかなか今後のことですので、どこまで書き込めるかというところはいろいろ難しいところもありますが、できる限り書き込みをしていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。それでは続きまして前田委員よろしくお願いします。

(前田委員)

本当に前回に比べてすごく分かり易くなっていて、かなりいろいろお手間を取らせたのかなと思ってしまいました。その中で、全体の1章から4章に関して2点ばかり更に追加ということをお願いしたいと思っています。一つが、9ページで国の政策が整理されていると思ったのですが、(1)から(5)までありますが、最初に頭出して頂いた方がいいと思いました。できれば(1)から(5)がどういう位置づけにあるのかということのを簡単に表か図のような形で国としては(1)から(5)というようなもので推進していますと(1)は全体としての計画で(2)は何でと説明

があって、そして以降詳しく説明されるとより分かり易いと思っています。国の政策は似たようなものが並んでいるので非常に難しいと思いますが、そうして頂けると読まれる住民の方々も整理されるのではないかと思います。それから 2 つ目が瀬戸市の現状と課題のところ、先程のご説明にありましたように課題を囲って頂いてクローズアップされてここは本当にすごく分かり易いと思ったのですが、分かり易くなると欲も出てきて、できれば難しいかも知れませんが、書き方を揃えて頂けるともっと分かりやすいと思います。具体的に言うと、このグラフは何を表したグラフで現状はこのような特徴があり、ここから抽出される課題は下のようなものですよという形で、できれば一つのグラフで 1 ページのような形で作って頂いて、どういうグラフかというグラフの概要と現状それから課題、その中に実際のグラフというのを表か何かで分かるとすごく見やすいかなと思った次第です。ここはグラフが 2 枚にわたっているものもあるのでこちら辺は少し応用いただく必要があるのかなと思いましたけれども、そういう風にして頂けるとよりグラフが分かり易いと思います。第 1 章から 4 章に関しては追加でお願いできたらと思った次第です。そして、新たに今回見せていただいた 5 章ですが、ここにきて委員の皆様が言っているようにリアリティーのある政策がでてきたのはすごく意欲も感じられるのですが、逆に言うところの計画の中で 5 章がある意味一番の肝のようになっていると思っています。その中で 55 ページの表の中では新規とか拡充だとかいうので表記されているので分かったのですが、できれば 48 ページから説明が続いているこの事業の頭出しのところに、こういう理由で事業を新規に起こしましたとか、あるいはこういう理由で拡充しますあるいは中身をこうしますというのを、理由つきで新規なのか継続なのか変更なのかということのある程度明示されると非常にいいのではないかと思います。具体的にいうと 46 ページの、要はこういう課題があったからこの事業を新規で計画するとか、こういう課題があったから継続だが中身を変更するとか、46 ページの課題とリンクして政策が語られると本当に非常に計画として筋の通った中身になると思います。大変だと思いますが、そういうところをチェック頂ければと思います。以上です。

(安田委員長)

前田委員ありがとうございました。非常に貴重な 3 点を頂いたと思います。事務局の方からご回答いただければと思います。

(事務局・情報政策課長)

言われることは重々分かりますので、また工夫してより今よりも分かり易いものができればと思いますので、もう少しやってみます。ありがとうございました。

(安田委員長)

本当に重要なポイントです。課題があって目標があって事業がある。目標から事業の橋渡しの部分がやはり少し見えにくいというところだと思いますので、このあたり少しお考え頂いたと思います。表に関しましても非常に重要なポイントだったと思います。3章の表ですが表に対して課題が述べられています、表がそもそもどういう表なのかというの分かり難くなっていると思いますので、このあたりも少しお考えいただけるとよろしいかなと思います。前田委員どうもありがとうございました。続いて羽根委員お願いします。

(羽根委員)

やはり気になるのはデザイン面で色とか見やすさです。文字ばかりが目に入ってきますので、そのあたりの修正をきれいにしていくと更に見やすいものなと思います。特に私が感じたのは47ページのところで「将来像の実現、住みたいまち 誇れるまち 新しいせと」とあるところが少し寂しい感じがするので強調するとか、下の部分の4色も今までのページに合わせていると思いますが、こういったところもデザイン的なことを考えて書き方を変えていくともっときれいに見えるのではないか感じました。

(安田委員長)

ありがとうございました。羽根委員の方からデザインのことをコメント頂けるのはうれしいことかと思しますので、だいぶ良くなりましたけど良かったが故にもう少しこうしたいということだと思います。もうひと工夫よろしくお願いします。それでは林委員お願いします。

(林委員)

すごく見やすくなって分かり易くなったと思いました。それで、皆様も言われましたが、やはり色のところですが、3ページの瀬戸市のとこ

ろが白抜きになっているのですが少し見にくいのかな、黒字の方がいいのかなとか、次の5ページの縦に「住みたいまち 誇れるまち 新しいせと」も白抜きなのも印刷のせいかもしれませんが見にくいと思いました。あと23ページのアンケートの13番のところ課題と書いてあるのですが、これは全然、直してという訳ではないのですが、私は率直にこれを読んで「日常の生活において、市役所の情報や観光情報などが入手しやすい環境にあると思いますか。」というアンケートがあったので、受けて側の環境の問題なのかなというふうにとったので課題を見てこういう情報側の問題だったのだなと思いました。46ページの矢印があってすごく分かり易いのですが、少し見にくいので例えば課題のところにはこれは緑色と何色がという感じで色の丸をつけると分かり易いかなと思いました。50ページの高齢者・障害者の支援のところですが、在宅医療介護連携システムというのは「もーやっこネットワーク」のことだと思うのですが、「もーやっこネットワーク」という言葉がここにはどこにもでてこないのでもいいのかなと思いました。あと、「ここノート」というのは商品名だと思うのですがノートはひらがなだと思いますが確認して頂けたらと思います。あと脱字なのですが、防災、防犯の推進の上の3行目のこのよな「な」が抜けています。

(安田委員長)

詳細を見て頂きありがとうございます。事務局から今のご意見についてコメントありますか。

(事務局・岡田専門員)

今、林委員が言われましたように「瀬戸旭もーやっこネットワーク」を基盤とした地域情報連携で瀬戸旭医師会と瀬戸市高齢者福祉課と民間企業の3者でネットワークを組んでいるもので、具体的には高齢者の方の冷蔵庫にセンサーがついておりまして、その開け閉めで家族へメールが送信されるというような安否確認をやっていると聞いています。

(安田委員長)

どうもありがとうございました。それでは続きまして寺田委員よろしく申し上げます。

(寺田委員)

前回からかなりの量を足していただき、また分かり易くして頂いた
ので読み応えのある資料になっていると思います。少し確認な
のですが、この計画案というのは誰に対して出していくものなの
かということをもう一度確認させて頂きたいと思います。

(事務局・情報政策課長)

元々と言いますと我々の青写真、今後、我々がどうすべきか、
どう進めていくべきか、というところが最初の取り掛かりな
のですが、当然、独りよがりではいけないので、委員の
皆様のご意見を伺い、市民の方々にご覧頂き、パブリック
コメントでご意見を頂いて、我々だけではない委員の
皆様を始め市民の皆様も読んで頂けるようなもので、
読んで頂いた上でこうだと意見が頂けるようなものに
できるのが最善だと思うものです。元々は我々がどう
仕事をしていけばいいのかというものをこれで固める、
事業の部分、最後の5章6章の部分は毎年度ロー
リングして5年間進行管理していくというものになる
のですが、まず読んで頂いて皆様のご意見が貰えない
ことには独りよがりになってしまうので、その意味
では皆様に見て頂けるものとして心掛けて作りたい
と思っています。

(寺田委員)

ありがとうございます。最初に、目指すべき瀬戸市の姿
があって、そこからそのためにはというような繋ぎ方がある
と一般の方は見やすいのではないかと思います。国、県、市
の現状とか読むのは、なかなかタフというか専門分野
の方でないと読み難い部分があると思います。瀬戸市の
現状の第3章の課題のところも、課題の抽出と現状とい
うところはあるのですが、せつかくですからこの先どう
していくかというところの目標を含めて書いて頂けると
もっと良いと思います。事務局からメールがきて、意見
が何かあったら出してほしいと依頼があつてここに反
映されていますが、もう少し咀嚼して頂けると有難い
と思います。それから少し気になるのが、現状として出
ている図だとかグラフとかの調査結果が令和元年9月、
10月というコロナウイルス拡大前の資料になつてい
るのでコロナウイルス拡大前に調査した結果の数字で
転出・転入だとか計っていいのかなど、瀬戸にいな
がらリモートワークができたとか逆もそうなので、
アンケート等の取った根拠とそこに書いてある内容
とかがもう少しうまく合致するほうが理解され易

と思います。それから、46 ページの基本目標と目指す姿を見た時に、ポイントで書いてある「瀬戸の強みであるものづくり文化などにおいて、ICT の利活用を促進し、それを支える ICT 基盤を整備し、便利で安心なまちの実現をめざす。」と書いてあるのですが、ものづくりの強みと ICT で便利で安心なまちとリンクしてこないと自分は思うので、ポイントなのでこれを見た人が理解され易い文章に直していただくとよいと思います。46 ページと 47 ページの図を見た時にこれに「せと」という言葉が書いてなければ、どの町も同じ課題を持っていると思います。せっかく瀬戸のまちで、以前、後藤先生も言われたように焼き物という言葉だとか ICT を利用した CG Kids プログラムだとかいろいろなことがあって、今までは焼き物のまちで所謂ものづくりの DNA が 1300 年の歴史としてあって、今瀬戸に住まう人がその DNA を持っているとは仮定すると、ICT だとかプログラミングだとかコンテンツのものづくりに進化させていくような、もっと夢のある文章を書いていただいた方が何か起こるぞといく気持ちになるのではないかと思います。55 ページの資料で自分がこだわっていることを申し上げると目標①まちの活性化の施策(b)の「小中一貫教育の推進」と「ギガスクール構想の推進」とリンクしてこないで項目の名前を変えた方がいいと思います。これでパブリックコメントを受けて取りまとめの作業にかかっていくということですので、申し上げました。

(安田委員長)

貴重なご指摘ありがとうございます。いくつかご意見を頂いたのですが事務局から今のご指摘に対しましてご意見いただければと思います。

(事務局・情報政策課長)

ものづくりのところは個別にコンテンツに入れ込んであるのですが、なかなか大きく書けてない部分はあると思いますので、今頂いたお話で、ものづくりの瀬戸らしさが ICT で進化するということを何か表せるといいなと思いましたので練ってみたいと思います。

(事務局・岡田専門員)

補足で説明しますと、43 ページで、後藤先生から頂いた言葉になりますが下から 2 行目で「さらに、市外の方が持つ本市のイメージは、日本の焼き物の代名詞である「せともの」のまちであり、ICT を活用

し、ものづくり文化の発信をはじめ、まちづくりに活かしていくことを検討しました。」ということで、今回キーワードとして「ものづくり文化」を載せさせて頂いております。この文章が寺田委員ご指摘のとおり第 5 章にも繋がるような文章を準備したいと思います。ありがとうございました。

(安田委員長)

ぜひ、いろいろお考え頂いて今の寺田委員のご意見を少しでも反映して頂けますようよろしくお願いいたします。それから寺田委員が先ほど冒頭で統計量の話をされましたけども、現在こういった計画を作っているところは皆同じだと思いますので、特にこの計画におきましても先ほど事務局から説明がありましたように、作った後どうこれを見守っていくか、計画をしっかりとチェックをしてリバイブをさせていくことが重要になってくると思いますので、そういうことも考えながらニューノーマルに向けてしっかりとフォローしていきたいと思います。それでは最後、戸田委員からお願いしたいと思います。

(戸田委員)

よろしくお願いいたします。個人的な感想ばかりで申し訳ないのですが 56 ページ以降の事業一覧、基本目標、事業概要、指標、あとは今後の方針ですとか ICT の活用等を項目ごとに分けて、わかりやすく書いてあるのでものすごく楽しく読ませていただきました。以上です。

(安田委員長)

どうもお褒めの言葉ありがとうございました。事務局の皆様も大変喜んでいてと思います。皆様から一通りご意見を頂きまして皆様のご意見と私も同じような意見がいくつかありました。全体的には非常にいい計画書に進化してきたなと思います。例えばリード文のポイントをつけられたとか QR コードを要所、要所に入れられました。それから表に対して抽出課題を作られたということも良いと思いますし、瀬戸の今の取組みに対して私たち委員の評価欄まで作って頂いて魂のこもった計画書になったのではないかと考えています。既に委員の方々が仰いましたけども 46 ページのこの表がすごい肝になってくるなど皆様ご認識の通りだと思っています。ただ、複数の委員からご指摘がありましたように課題と目標との関連性のところがやはりこれでは見にくいと思いますので、林委員から修正のひとつのアイデアを出して頂

きましたけどもそういった課題の中に丸い色をつけるというのもありだと思えますし、それから課題がどうして出てきたか、表から7つの課題がどう出てきたかところをもう一度ここで復習できるというなと思えました。前の方から順番に読んだ方は7つの課題がどういう意味で出てきたかは分かると思えますが、この表からだけでは見にくいのでそこで何か引用ができるといいと思えました。全体的に色をよく使って頂いて本当に分かり易くなったなと思っておりますけども、5章のところの内容ですが、しっかりと書かれておりますが、どなたか仰ってましたが、文章ばかりで少しインパクトがないと私も率直に思いました。例えば「もーやっこネットワーク」とか「この一と」等、そういった事を少し太字で強調されるとかメリハリを文章の中につけていただくと非常に分かり易くなると思えました。6章に關しましては今後、20課から42事業でしたでしょうか、濱村委員も言われたように各課からやるぞという意気込みが見えてきてとてもいいなと思えました。先ほどからお話がありましたけども課題から目標そして事業への連携、先ほど前田委員も言われましたけども、ここら辺の流れもしっかりと分かり易く書いて頂けるといいと思えました。それから青色が瀬戸市の色ということで難しいかも知れませんが、6章も右上にそれぞれの事業の色づけでまちの活性化、利便性の向上とあるのですが、表の色は水色でずっと一緒になっています。これをもし可能でしたらそれぞれの目標の色にされた方が分かり易いと思えました。この計画はもちろん市役所内で計画を推進するために重要なバイブルになるわけですが、やはりステークホルダーである市民の皆様にも市役所はこういう形で頑張っているのだということも適宜発信するという意味でもこの計画書の意味づけもすごくあると思えます。今日も委員の皆様からいろいろ意見がありましたけども市役所の職員だけではなく市民の皆様にも分かり易くより一層この計画を最終版に仕上げただけであれば大変よろしいかと思えました。全体的にこういった計画、いろいろな自治体の計画の中では非常に分かり易い企画書になってきたという思いが率直な感想としてありますで、更にもう少し汗をかいて頂いてパブリックコメントに向けて修正をして頂ければと思います。とりあえず前半これでいいでしょうか。事務局にお返しします。

(事務局・情報政策課長)

これが最終の原案の打合せになります。このあとはパブリックコメントに入り、おまかせ頂いての修正になりますが、その後、皆様にご覧

いただきたいと思っております。まだ気づいたことがあればお聞きしたいのでここで一旦休憩にさせて頂いてよろしいでしょうか。よろしくをお願いします。

(事務局・情報政策課長)

それでは、お時間になりましたので再開させて頂きます。今、事務局から配っておりますが他の計画の中で意見があったのですが、やはり UD フォントの方がユニバーサルデザインで見やすくだろうという話しがありましたので、UD フォントに切り替えていこうと思っております。字のバランスもあまり変わらずおそらくページ構成もそれ程変わらないと思いますのでご了承いただければと思います。

(安田委員長)

ありがとうございました。確かにあまりフォントを気にしていませんでしたがこうして比べてみると見やすいです。それでは、あと 30 分程しかありませんが皆様言い残したこととか、まだこういう観点もあったということ、ここからは挙手でぜひ自由にご意見を出していただければと思いますがいかがでしょうか。

(前田委員)

目標の 4 つに色をマッピングしたらいいのではないかと思います。まちの活性化だったら何色、生活の利便性向上だったら何色というふうに色をマッピングした方がいいと思います。それでその時に今は、まちの活性化が緑色になっていて利便性向上がオレンジになっているのですが、出来れば 3 番と 1 番の色を替えた方がイメージに合うかなと思います。まちの活性化や利便性向上は暖かい色にして、基盤の強化とかスマート自治体は寒色系にして重みを持たせた方がいいと思います。

(安田委員長)

良いご意見です。人に関わることを暖色系でということは、とてもずっと入ってきたご意見だったと思います。ありがとうございました。その他どうでしょうか。

(濱村委員)

この推進計画そのもの自体ではないのですが、先ほどの発言の続きになりますが、今後デジタル庁の動きの中で、システムの統一とかというのが自治体様に来ることが想像される中で、54 ページの (b) のシステムの標準化、共同化というのはこれを意識して書かれているという認識でよろしいでしょうか。

(事務局・情報政策課長)

東日本大震災の際に戸籍とかの情報が流れて無くなってしまった。だから強固なデータセンターを置きましょうということから始まったのが自治体クラウドです。それだけでは二重に電算室を持つとか負担が大きいためなので、皆で共同利用すれば、システムの使用料が下がったり、コストが下げられたり、あとは法改正時にもマンパワーが必要ないということで共同化を進めましょうとずっとコロナウイルス拡大までは来ています。尾張旭市や日進市と意見交換をして、どこかのデータセンターを共同で借りて、共同システムを同じ標準の状態で共同利用してコストダウンしましょうというのを次回に向けて進めていましたが、そこへ今回のコロナウイルス拡大のことで国の方から全国統一の標準のシステムという話がでてきていますので、ベンダーは何種類かできると思いますけどもシステム構成、画面等皆一緒のシステムになると思われるので、その明細がでてこないと今までのまま進めていいのかどうか、その辺を含め次の 5 年後に向けて考えていかなければいけないので、どちらも見据えて考えますという書き方の資料になっています。

(濱村委員)

ありがとうございます。ひとつ確認させていただきたいのが意図でしたので、承知しました。市民の方がデジタル庁にどれだけ関心をお持ちか計りかねるところはありますが、やはり変えようという動きがすごい波がきていて、ニュースでもでてるので、それが自分の住んでいるまちではどうなるのだろうという関心は市民の方はあるのではと思っております。どこでどういうふうにならぬのか、なかなか難しいとは思いますが、こういう部分を見据えたうえでの ICT 計画を今後育てていくのですよというのを何かしらのメッセージで市民に出せば市民の皆様に関心度の醸成につながると思った次第です。

(安田委員長)

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

(事務局・情報政策課長)

先ほどはシステムの部分をどうやっていくかだったのですが、今言われた市民が関心を持たれているところ、瀬戸市がどうなっていくのだろうというところは目を向けるきっかけになると思うので、今の段階でどこまで書き込めるかは判りませんが、書き方で工夫できればと思います。一度考えてみます。

(安田委員長)

そうですね。バックヤードのところでのデジタル庁の動きは当然フォローしていかなければいけないところだと思いますし、今お話しのフロントヤードのところでは住民サイドとしてどんなサービスになっていくかということです。これも動かしながら逐一改定していかなければいけないところだと思います。マイナンバーカードも含めてフロントエンドでどんなサービスになっていくかといくことは、見守る委員会の方で逐一チェックしていかなければいけないと思います。ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

(寺田委員)

48 ページの(c)にあるソフトウェア産業等の誘致・育成のところ、第6章の事業スケジュールでは実施・検証となっているのですがこれは実例というか動きが出ているのかどうかを伺いさせてください。

(事務局・情報政策課長)

もう既に実際に進めている事業ですので、これを継続していくことだと思います。

(寺田委員)

こういうのは実数とか示せるものはこの表の中ではないでしょうか。

(事務局・岡田専門員)

63 ページをご覧くださいませでしょうか。指標を見て頂きたいのですが「IT・クリエイティブ企業等誘致補助金申請事業者数」におきまして、現時点で2社の誘致が市内で出来ております。ですが要綱の部分

で少しハードルが高い部分があって、今事務局が見直しを検討していると聞いております。

(寺田委員)

ありがとうございました。数年後には、モリコロパークがジブリパークに変わるので、関連コンテンツの会社だとか誘致が出来たり、資料をいろいろ見させていただくとやはり少子高齢化ということで危機感はあるのですが、10代、20代の移住の意思というのはこういうものかなと思いますが、そういうことばかりではなくて高齢人口と言われる人たちでも、実際に瀬戸市でもシルバーセンターの方たちは大活躍されて予約も取れないこともありますので、IT企業とかりタイヤされた方をそういう場に取り込むとか、すぐ変わるというわけではないと思いますが高齢人口であって生産人口に変わっていったらというように何かどこかで分かることがあるといいのではないかと思います。これは意見ですけどお願いします。

(安田委員長)

ありがとうございました。非常に重要なご指摘で各自治体も新産業をどう盛り上げていくかというところは頭を悩ましているところでありまして、寺田委員が言われたように新しい産業、例えばデジタルコンテンツのような新しい産業をどう振興していくかという話と、それからかりタイヤされたようなITスキルのあるような人材をもう一度社会の中で役立てて頂けるような、そういう産業として育て上げていく2つの方向性がありますというお話を頂いたと思います。これ本当に重要なポイントだと思いますので継続的に瀬戸市も考えて頂かなければいけない問題だと思います。前者につきましてはいろいろな自治体が新しい会社を誘致するためにいろいろなことをしておりますので、そこら辺は事務局の方でリサーチされていると思いますけども本社機能だけでなくランチ機能でも構わないと思います。そんな感じで瀬戸市に産業がどんどん賑わっていくような、ぜひ他の自治体に後れをとらないように頑張って頂きたいなと思います。重要なご指摘ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

(後藤副委員長)

48ページ以降のまさに核になるところなのですが、やはり文章が多いので、この報告書の中でアイコン的なものがあまりでてきていない

ところがあって、少し残念だったのは、せとまちナビもアイコンがありますが例えばそのアイコンだとか、Wi-Fiのところだけがアイコン的なものがあるおそろく 55 ページの一覧に書かれているいろいろなアプリだとかシステムだとかそういったものは何かアイコン的なものがあるはずなのでそれを文章のところに反映させていくと、視覚的にもこれ見たことがあるとか、これあそこで使っている人がいたとか、そういうようなところもあって、私も瀬戸に住んで 10 年経ちましたけども子育てをしていたりして要は生活者目線でこういったシステムのことが口コミとかアイコン的なものも含めてあまり入ってこないです。自分から取りにいけば一杯ありますが、多くの方がそうだと思いますけども、それぞれの生活とか忙しい中、自分で取りに行くところまでいかない人が、普通に生活していて耳に入ってくるようにするにはどうしたらいいのかというところが、特に ICT に関してはすごく重要な部分になってくると思います。そういったところでの情報の伝え方の象徴的なものがアイコン的なものだと思いますので、そういったものをうまく PR に活用していただくのがいいのではないかと思います。

(安田委員長)

どうもありがとうございます。事務局いかがでしょう。

(事務局・情報政策課長)

確かに 48 ページ以降は事務局側も熱が入って文字が多くなってしまったので、ポイントを記載していますので、まずはポイントを読んで頂ければと思います。長い文章がつながっているので確かにアイコンが入れば和らぐと思いますので見直してみます。

(安田委員長)

熱がこもり過ぎて文章が走ってしまったところもあると思いますので、よろしく願います。その他いかがでしょうか。林委員どうぞ。

(林委員)

アイコンという意味ではコミュニティ FM も RADIO SANQ がありまして、QR コードもマークありますのでよろしく願います。ここに載せることでは全然ないのですが L アラートというのを協定して自治体からの災害の情報を得ておりまして、将来、それを音声化して

オプションとして SNS で発信できる業務があるそうで、それがあればパーソナリティが駆け付ける前でも音声化されたものが流せるということなので、そういうことができていくといいという話をしておりました。特に寺田委員も言われましたけどもコロナウィルス拡大前のアンケートなので今、アンケートをとったら違うし、前まで興味がなかった方が必要性を感じているのではないかと思うので、いかにこれがまた改善されて出来上がった時に皆様にご覧して頂いて、ここでいい意見は勿論でたのですけども、市民の皆様が見てくださってまた違う点で気づくこととかいい意見がでると思うので、皆様がいかに見て頂けるかというところがポイントになると思うので、こういうものが出来ましたどうぞ見てくださいということを、いかに皆様に広げていくことが重要だと感じました。

(安田委員長)

林委員ありがとうございました。コミュニティ FM の方でもこの計画をぜひ適宜ご案内頂いて市民の皆様にご覧いただけるといいと思います。事務局からご意見に対してどうですか。

(事務局・情報政策課長)

先ほどから皆様言われている通り、見て頂かなければ始まらないというところは少しずつでも味付けできているのかなと思います。パブリックコメントまでにもう一度整理して、よりよいものしてから出していきたいと思います。

(安田委員長)

ありがとうございます。林委員から L アラートのお話を頂いたのですがこの計画書とは関係ないのかも知れませんが、実は私、この地域の L アラートの委員長を初代からずっと 10 年間やっております。L アラートは先ほどのご説明にありましたように各自治体とインフラ事業者、放送局含めてつなぐ重要なシステムとして機能しておりまして、実は東海地域が全国初なのです。この地域は大変協力的で非常にやりやすいということで総務省がいち早く目を付けたといいますか、東海地域が初ということで成長しておりまして、いろいろな事業者が入っておりコミュニティ FM は非常に重要な役割を担っていただいている訳です。また防災につきましても、また追々この計画の中にどう落とし込んでいけるか、今回ではなくても今後進めていく中で、どうコミットしてい

くかというところを考えていければと思っております。皆様、他にご意見ありますでしょうか。なければ事務局の方からどうぞ。

(事務局・岡田専門員)

パブリックコメントについて別添で資料を付けさせて頂いておりますので、簡単に説明させていただきます。パブリックコメントは、12月14日の月曜日から1月15日の金曜日、約1か月間実施させていただきます。勿論市役所にも置きまして、市民サービスセンター、支所にも置きます。今回ICTということなので、デジタルリサーチパークセンターでIT講座に来られる方もたくさんいらっしゃいますので、そこでもしっかり見て頂けるようPRしていきたいと思っております。市内在住、在勤、市外の方でもご意見いただけるようになっております。また、委員長からQRコードの活用ということを書いて頂いておりますので、QRコードも付けておまして、広報せと12月1日号にもQRコードを付けて募集しております。また皆様方からもぜひ「今、パブリックコメントをやっているよ。」とお伝え頂けると非常に有難いと思っております。

(安田委員長)

意義のあるパブリックコメントがくることを期待したいと思います。パブリックコメントは、いろいろな自治体が募集しますが、我々1市民として考えなければいけないと思うのは、こうして欲しいああして欲しいというニーズの割合がすごく多いです。昔、アメリカの大統領が「政府があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが政府に何ができるかを考えなさい。」という有名なスピーチがありましたけども、そういう気持ちを市民がどう感ずるかということがとても重要なことと思っております。なかなかすぐには難しいとは思いますが、パブリックコメントを募集する際には、そういった心が伝わるようなメッセージをどこかに入れて頂けるとよいと思います。皆で瀬戸をよくしようという、そういう意味でご意見を待っていますという気持ちが伝わるようなパブリックコメントの案内にして頂けるといいのかなと思います。どうぞよろしく願いいたします。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは今日は第4回ということでありがとうございました。マイクを事務局にお返しします。

(事務局・情報政策課長)

ありがとうございました。本日の皆様のご意見を最終のパブリックコメントまでにできる限り盛込みまして、この後作業して、庁内と議会への周知をしてパブリックコメントになります。パブリックコメントの結果を踏まえたうえで次回、皆様のご意見をいただきまして最終、固めさせて頂いて、3月に公表して参りたいと思っております。次回の日程はまたご案内申し上げます。では第4回の委員会をこれで終わりますのでどうもありがとうございました。

以上